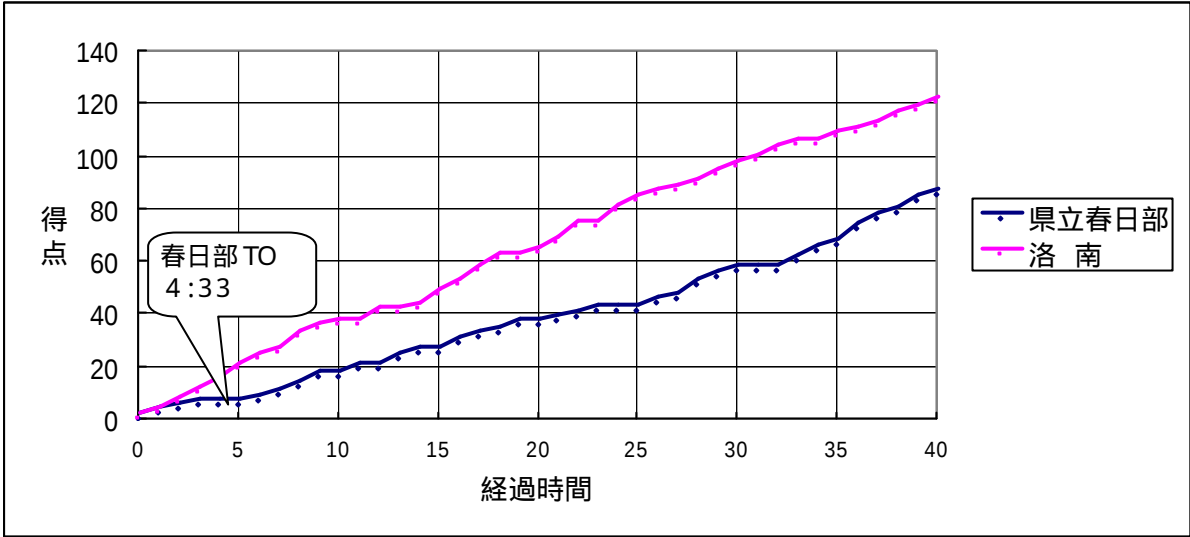


大会名	平成19年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会第60回全国高等学校バスケットボール選手権大会	E4	15:00	男子 3回戦
期日	2007年（平成19年）7月31日（火）	県立春日部 85	埼玉 ●	$\left[\begin{array}{r} 16 - 36 \\ 20 - 27 \\ 20 - 33 \\ 29 - 24 \\ - \end{array} \right]$ 120 洛 南
会場	唐津東高等学校			○ 京都

主審 川 端 孝 博 副審 嶋 田 博 昭



県立春日部

	No.	氏 名	点	3P	2P	FT	F
	4	金子 峻也	33	3	9	6	1
○	5	橋本 拓実	9	0	4	1	3
○	6	春本 龍彬	25	1	10	2	2
	7	徳永 隆三	3	1	0	0	0
	8	大江 隼人	0	0	0	0	0
	9	進藤 佳太	0	0	0	0	0
○	10	坂井 亮介	1	0	0	1	1
	11	齊藤 拓也	0	0	0	0	2
○	12	新田 華武伊	6	0	3	0	4
	13	倉林 紀和	0	0	0	0	0
	14	白石 健太	0	0	0	0	0
	15	清水 隆亮	8	0	4	0	2
	16						
	17						
	18						
コーチ		伊澤 暁					
		合計	85	5	30	10	

洛 南

	No.	氏 名	点	3P	2P	FT	F
	4	田村 晋	23	1	9	2	1
○	5	辻 直人	25	3	6	4	0
	6	加藤 貴大	8	0	3	2	2
	7	谷口 達朗	9	0	4	1	1
	8	柳田 将人	4	0	2	0	2
	9	神津 悠平	5	1	1	0	0
○	10	谷口 大智	12	0	5	2	1
	11	松岡 大騎	3	1	0	0	1
○	12	比江島 慎	18	2	6	0	0
○	13	佐藤 将人	4	0	2	0	1
	14	蛭名 涼	5	1	1	0	1
	15	河上 宗平	4	0	2	0	0
	16						
	17						
	18						
コーチ		吉田 裕司					
		合計	##	9	41	11	

○はスターター（はキャプテン）3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦 評

優勝候補洛南に果敢に挑んだ春日部であったが、洛南は危なげない試合運びで春日部の挑戦を退けベスト8進出を果たした。第1P両者マンツーマンディフェンスでスタート。洛南は#5辻・#12比江島らが次々とドライブインからの得点を重ねる。2回戦で46得点と抜群のシュート力を見せた春日部#4金子だったが、今日はなかなかシュートが決まらない。3分過ぎからは洛南#13佐藤からのすばやい展開に5連続得点を許し、ここで春日部ベンチはタイムアウトを請求。その後、春日部#4金子のシュートも決まりだし、#5橋本のポストプレーなどで応戦するも、洛南の勢いを止めるまでにはいたらず、36対16洛南リードで終了。第2P洛南は主力二人を休ませスタート。4分過ぎまでは両者攻めがかみ合わず互角の展開が続くが、4分過ぎに洛南#4田村がコートに戻ると、ドライブインで春日部ディフェンスをかき回し、#5辻が外から3Pを射抜くなどバランスの良い攻めを見せる。春日部も#4金子・#6春本が得点を決めるが散発に終わり、総合力で勝る洛南が63対36とリードを広げ前半終了。第3P洛南#5辻の連続得点で始まる。春日部は#10坂井が積極的に1対1を仕掛け、ファウルをもらう。しかし、洛南#4田村が内・外から得点を重ね突き放していく。追いかける春日部は、オールコート1-2-1-1ゾーンプレスでボールを奪いに行き、反撃に移る。洛南は慌てず、逆に速攻につなげ第3P 96対56で終了。第4P洛南得意のパスランの攻撃で次々と得点を重ねる。春日部も#6春本・#15清水がオフフェンスリバウンドをがんばり、リング下で得点する。#4金子も積極的にシュートを狙い意地を見せる。しかし、洛南はメンバーを変えても攻撃力が落ちず、春日部も最後まで厳しいディフェンスでボールを奪いに行くが、差は縮まらず120対85でタイムアップ。

記載者 原田 浩臣 (所属) 佐賀県バスケットボール協会